

## 2024年6月講座 感想

<参加者より>

右山実践(旧姓儀間実践)は、何度か研究大会や会誌にて触れる機会がありましたが、改めて地域を大切に実践されていることに敬服しました。

「勤務地は3年程度でかわる」の話に「もっと地域に根をおろして実践した方が…」と当初は思いましたが、話の中で「外から来た(異動してきた)からこそ見えるものがある」の話に納得しました。新たな地域で出会う歴史、文化、人に感動を覚えるのは、その地で初めて触れた時である。その感動を原動力に子どもたちに出合わせたいと教材化する。右山実践の根底の精神がよくわかった気がしました。

2020年以降、ウィズコロナ・アフターコロナの学校教育の中で、黙習・黙読・黙食等の「一人学び」がはびこり、共同で学ぶ機会が減りました。見学・体験学習の機会も減り、代わりに「タブレットの映像」での疑似体験が当然の学習として根付き始めています。

あらためて今日の話を通して、五感で学ぶ大切さを知り、子どもたちが自身で学びを深める授業作りを取り組む必要を痛感しました。

本日の話題であった「地域の教材をどうみつけ、教材化するか」は、私が担当する歴教協全国大会第10分科会のテーマでもあります。各地の実践をぜひ、見聞してほしいと思います。

報告された右山さん、運営に携わったみなさん、本日は有難うございました。

小学校教員 Sさん

実際に「人に聞くから」、「人とつながるから」こそ、子供たちは興味を持って、意欲的に学習するということが印象に残りました。教科書や資料の上だけでの学びでは持たせられない子供たちの思いを、地域と実際につながっていくことで、見事に生み出していく様子に、終始驚きっぱなしでした。また、講座が終わった後は、実践を参考にして、一部でも自身の授業に生かせないか、2学期以降の単元を思い起こし、いろいろ考えてみたくなりました。

ゲストティーチャー1人をお願いするにも、管理職や学年主任への相談、人材探しに依頼、スケジュールの調整、子供たちへの事前指導、たくさんの準備が必要であり、これまであまり積極的にやってみようと思いませんでした。ですが、右山先生の実践から、生き生きと学ぶ子供たちの姿を見ていると、これまでやろうと思わなかったことがもったいなくなりました。

素敵な実践報告をありがとうございました。

小学校教員 Mさん

昨日は、ありがとうございました。午後に予定があり、最後まで参加できずすみませんでした。今度生まれてきたら、沖縄で小学校の教師をしたいと思うほど、魅力的な内容でした。小学校の社会科や生活科も含めて、自由裁量が大きく、入試にもとらわれず、学びたいことがたくさんできると思いました。また、沖縄という歴史や文化、自然が豊かな土地には、たくさんの学び場が身近にあることも知りました。とても良かったです。右山さんが3年程度で移動というのはもったいない気がしましたが、私の最後の3年なり4年間なりを振り返ると、短いほどその1年を大切にできるとも思いました。今は、その反動でやや放心

状態ですが。中学校や高校とは違う、小学校社会科の役割や魅力といったものを感じました。このような授業づくり講座に小学校で教員をしている教え子も誘いたかったです。ありがとうございました。

中学校教員 Sさん

今日は実践講座で、奏子さんに画面上でお会いすることができてとてもうれしかったです。

奏子さんには、お話にも出てきましたが、和光小学校の子どもたちが毎年沖縄でお世話になっていました。中山きくさんの体験談を中心に、白梅学徒隊がたどった南部のコースをガイドしてくださっていました。私自身も修士論文(総合学習沖縄の可能性)を書くために奏子さんにお話を聞かせていただきました。その時のお話でもエネルギーな印象を受けました。奏子さんは異動した先の学校で平和主任を任せられ、これまでの平和学習にはなかった新たな視点で子どもたちと戦争と平和について考える時間を作り出している話にとても励まされました。

和光小学校の平和学習に刺激されたため、お手伝いした、とおっしゃっていただき、私たち和光小は沖縄の方々お互いに学び合い、刺激合ってこれまで平和学習を継続してこられたと結論付けました。どちらか一方だけではなく、互いに学びあうことで沖縄学習が成立していたことが明らかとなりました。

今回は平和学習とはまた違う視点でした。地域に学び、地域とつながる実践の意味を考えさせられました。とかく小学校の社会科は「教科書をどう教えるか」という点に縛られがちだと思います。教科書に記載されていることを子どもたちに教え、最後は教科書会社が作成した業者テスト(市販テスト)で評価をつけておしまい、というだけになってしまう教員が多いのではないかと感じています。

地域を教材にする場合は、全国版の教科書ではなく、地域を研究して編集された副教材(副読本)の出版になります。副教材は読み込むとかなり使えそうです。そして何よりも奏子さんがおっしゃっていたように教員自らが足で稼いで資料を探し、人に出会うことで教材を生み出すことになります。

このような話を大学ですと、学生からは「教員の負担が増えるのではないか」という疑問が出る場合があります。難しいところですね。地域に出かけて教材研究をすることを面白いと感じるか、負担と感じるか、奏子さんは間違いなく前者です。私も小学校に勤務しているときは世田谷に江戸時代から伝わる伝統野菜の大蔵大根がどの店で販売されているか、農家は何を考えて大蔵大根を復活させたのか、などを歩き回って調べたものです。地域の人たちから学ぶことはたくさんあり、またたくさん励まされたことがありました。

奏子さんのお話では、授業の技術的なことを学ぶというよりも、地域につながるとはどういうことかを考えさせられました。文科省が言っているように学習指導要領は大綱的な存在です。そして学校のある地域の実情や子どもの実態に合わせて学校ごとに教育課程を編成することが学校や教員の専門性に任せられた仕事だと考えると、地域学習こそが学校ごとの学びの実現だと思います。地域ごとに多様な学びがあり、それを実現することの面白さを奏子さんは語ってくださいました。

ありがとうございました。

大学教員 Fさん

右山さんは、地域にある宝(地域にある教材・題材、地域でいきいきと働く人たち)を捜すのが大変上手だと思いました。3年で転勤を繰り返しているとのことですが、3年という短い期間によくもこんなにその地域の宝を探しだし、それらを題材に実践していると感心しました。

(ポイント)＝右山さんは、人と人、学校と地域の繋がりを活かすことが並外れてうまいところにあるような気がします。

右山さんがうけもった子ども達は、これによって学校で、地域で多くの地域の大人と出会い、地域にある宝に触れ、学ぶことができるのだと思います。

ただ並外れてうまいレベルにあるので、他の先生は簡単にはまねができるわけではありません。またその学校での右山実践の継承も体制を整えておかなければ難しいと思います。

私は腰を落ち着けてその学校で教えることは重要だと考えています。1校に10年程度は勤務できるといいなと経験的に考えています。

その地域に生きる子どもがわかってくる。その地域がわかってくる。その中でその学校にふさわしい地域に根ざした教育実践ができるのではないか。という仮説をもっています。

右山さんはこの点どう考えますか？

(なお東京都立の高校や特別支援学校では2005年くらいまでは1校に12年勤務できたのですが、それ以降1校=6年までとなり、仮説は仮説のままです)

今回たくさんの「足元(地域)にある宝の見つけ方」の具体例を報告してもらいましたが、今度右山さんの報告を聞く機会があれば、こういう取り組みをしたことによる子どもたちの成長の様子をうかがいたいと思います。

特別支援学校教員 Tさん

世界と繋がるというと遠くの場所をイメージしようとなりがちでしたが、子どもたちはなかなかパソコンの調べ学習だけでは興味を持ちきれない。地域の身近な話題からその場所を繋げてあげることで生徒の学習の興味関心、取り組みの度合いが大きく変わることが発表からわかりました。今回のお話を聞いてより地域学習から世界を見据えられるよう、授業を工夫していこうと気がつく良い勉強になりました。ありがとうございます。また、右山さんの発表中の笑顔とても素敵でした。どの内容も自分が楽しくて調べたくてたまらないことが画面からも溢れ出ていました！！新しいステージでもご活躍楽しみにしています。

特別支援学校教員 Tさん

<講師より>

天職と思える教師という仕事に出合い、無我夢中で走ってきた22年。夫の転勤先である福岡へ行くために8月に退職し、大好きな沖縄を離れるこのタイミングで、講師の依頼を頂きました。講座の準備のために、これまで勤めてきた学校での実践を振り返る中で、一貫して地域にある宝を見つけることを大切にしていたことに、改めて気付かせてもらいました。

「沖縄発⇒世界行き」というタイトルは、例え周りが海に囲まれた小さな島であっても、世界に繋がることは出来る、というメッセージが込められています。拙い実践ですが、参加して下さった皆さんにとって、少しでも何かのヒントになってもらえたら嬉しいです。

Zoomで伝える難しさがあり、3時間という長丁場の講座はスゴク不安でした。しかし、運営の皆さんの細やかなフォローのおかげで、無事終わることができました。また、皆さんと画面越しではありましたが、交流出来て、すごく楽しかったです。

<司会より>

今年度最初の講座は、右山様を講師として、沖縄からオンラインでこれまでの実践を報告していただきました。平和教育にも力を入れて、数々の実践をされていましたが、今回は私からの希望で、「地域学習と教材の開発」を中心に、話していただきました。

地域にある資料や文化財、そして何より人材を生かして、いかに子供たちの興味や意欲を引き出していくのか。これまで、誰も気に留めなかったものを教材として最大限に活用し、そこから地域の人々と学校、子供たちをつなげていく。そのような、右山様のアンテナの高さ、アイデア、行動力には、私も含め多くの参加者が刺激を受けました。実際には、簡単なことではありませんが、「少しでも真似してやってみたい」という思いが自然と湧き上がってくるような、ワクワクする実践報告でした。

今回も、学校種を問わず、たくさんの方にご参加いただきました。自身の地域についての教材を探してみたり、講座全体についての意見や感想を話したりと、参加者同士での交流ができたことも、非常に価値のある時間であったと思います。

お忙しい中、参加して下さった方々、そして何より、何か月にもわたる準備、すばらしい報告をして下さった右山様、本当にありがとうございました。次回、9月講座もよろしくお願いいたします。